

2024年12月

ブラジル砂糖黍サプライチェーンにおける 人権影響評価実施報告

キリンググループでは、「キリンググループ持続可能な調達方針」^{※1}及び「キリンググループ持続可能なサプライヤー規範」^{※2}に基づき、キリンググループの調達品の人権リスクを、事業への影響度や外部専門家の助言も踏まえたうえで評価し、2022年中計にCSVコミットメントとして、人権リスクの高い調達品のサプライチェーンに対する継続的な人権デューデリジェンスの実施を掲げました。

2022年はスリランカの紅茶葉、2023年はアルゼンチンのぶどう果汁のサプライチェーンで実地監査を通じた人権影響評価（HRIA）^{※3}を実施し、見つかった課題に対してサプライヤーと協同で改善に取り組みました。また2024年においては、ブラジルの砂糖黍のサプライチェーンを対象に1次取引先である三菱商事株式会社とその上流サプライヤーに対してHRIAを実施しましたので、その結果を報告します。

※1 [「キリンググループ持続可能な調達方針」](#)

※2 [「キリンググループ持続可能なサプライヤー規範」](#)

※3 HRIA：Human Rights Impact Assessment

1. 砂糖黍サプライチェーンにおけるHRIAスコープと手法

砂糖黍のサプライチェーンは、1次取引先(日本)、加工工場(ブラジル)、農場(ブラジル)で構成されており、その全てをHRIAのスコープに設定しました(図1)。

1次取引先には、取引開始時にキリンググループ持続可能なサプライヤー規範の承諾書を提出いただき、上流サプライヤーへのカスケードダウンも依頼しています。また、2年毎に実施しているアンケート調査でリスクを評価しています。

一方、上流の加工工場や農場は、通常時は1次取引先を通じた管理をしていますが、今回、弊社によるSedex SAQを用いたデスクトップ調査や、第三者機関によるSedex SMETA実地監査を実施し、評価項目に対する取組みの実態を把握しました。

2. 今回のデスクトップ調査・実地監査・現地視察の対象範囲

取引数量が多く、継続した取引があるブラジル サンパウロ州の砂糖黍加工工場とその農場(全農場の7割)を対象としました。

3. デスクトップ調査・実地監査の評価項目

Sedex SAQおよびSedex SMETA監査を用いましたが、基本的には、キリンググループ持続可能なサプライヤー規範に準拠し、5つの柱である「安心安全」「人権」「安全衛生・健康」「環境」「誠実なビジネス」の観点で評価しました。

4. デスクトップ調査・実地監査の評価方法

デスクトップ調査は弊社にて実施し、加工工場から事前に提出されたSedex SAQの回答内容を確認しました。実地監査は第三者監査機関であるBureau Veritas社にてSedex SMETA監査を実施しました。現地で3日間、ドキュメントの確認と従業員のインタビューを行い、弊社も全日程に同行しました。

5. 評価結果

実地監査の結果、児童労働や強制労働などの重大な問題は見つかりませんでした。自社やサプライヤーに対して方針と体制が整備されており、労働安全衛生についても、安全柵の設置、計画的な設備メンテナンスの実施、ごみの分別や男女別のトイレの設置など、良い取り組みが多数確認されました。一方、消防や試薬管理に関する項目等で幾つか課題がみつかりました。

6. 従業員とのコミュニケーションを通じた気づき

従業員とのコミュニケーションを通じて、多くの気づきが得られました。例えば、農場で機械化が進んでいることは事前に把握していましたが、農場内の休憩所への男女別トイレの設置や収穫機の空調完備など、女性や高齢者の方も安心して働ける環境が整備されており、実際に女性や高齢者の方も多く従事していました。

7. 今後のステップ

見つかった課題に対して、優先順位を設定し、1次サプライヤーを通じて改善依頼をしました。リスクが高く緊急性が高い課題4件は3か月以内(2024年10月まで)に、それ以外の7件は6か月以内(2025年1月まで)に対策の策定を依頼し、改善の取組みを進めていきます。取組みの進捗は当社ホームページ上で適時開示します。

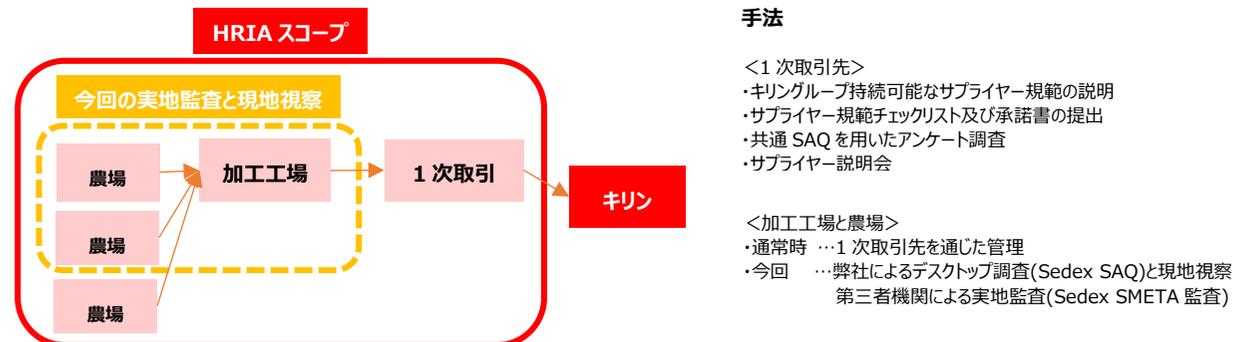


図1：砂糖黍サプライチェーンにおけるHRIAスコープと手法